

高校のスペイン語の授業における「協働」

第 175 回関西スペイン語教授法ワークショップ (TADESKA) 例会

日時：2024 年 11 月 10 日 (日) 15:00 - 17:00

場所：Zoom を利用したオンライン開催

担当：廣瀬瞳

"Colaboración" en la clase de español de bachillerato

CLXXV Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA)

Fecha y hora: Domingo, 10 de noviembre de 2024, de 15:00 a 17:00

Lugar: En línea (Zoom)

Ponente: Hitomi HIROSE

本報告では、今年度の TADESKA のテーマである *Mediación y colaboración* に関連して、発表者が高校の授業で実践したグループタスクをもとに、授業における「協働」の例を共有した。具体的には、CEFR 増補版「3.4.1.2. *Mediar conceptos* (概念の仲介)」の中の「*Colaborar en un grupo* (グループで協働する)」と「*Lidear el trabajo en grupo* (グループワークをリードする)」について、生徒同士の協働、及び教師側の協働を促すための取り組みとして、教室内でどのような行動や考えが見られたのかを報告した。

発表者は、スペイン語学習 2 年目である高校 3 年生のスペイン語の授業において、単元の学習のまとめとして「友達を誘って、買い物や食事をしよう」というパフォーマンス課題を行った。パフォーマンス課題の具体的な指示文と本課題の実践スケジュールは以下のとおりである。

パフォーマンス課題「友達を誘って、買い物や食事をしよう」

この課では、友達を誘ったり、依頼したりする表現を学習しました。皆さんが将来スペイン語圏に旅行をしたときには、お店でのやり取りは欠かせません。また、海外に行かなかったとしても、将来アルバイト先にスペイン語圏からのお客さんが来るかもしれないし、スペイン語圏の友人が来日した時にはどこかのお店に連れて行くこともあるでしょう。そこで、今回は、皆さんで自由に設定を考えて、スペイン語を使った買い物もしくは食事の注文のやりとりを実演してください。

- ストーリー決め、台本作成、準備、発表までの流れを 3人グループで協力して行ってください。
- 出来るだけ具体的な設定（登場人物、場所、目的など）にしてください。
- 店に行くまでの会話（友人を誘うなど）から、お店やレストランでモノを買うまでのやりとりをしてください。
- この課で学習した、**大きな数**、及び「～したい」「～できる」「～するつもりだ」「～しませんか?」「～してくれませんか?」「～してもいいですか?」などの**誘い・依頼・許可の表現**を使ってください。

	授業の活動	授業外の活動（宿題）
第1週	パフォーマンス課題の説明 グループ決め ストーリーの設定決め	ストーリーの設定決め（続き）
第2週	スペイン語の原稿作成 スペイン語の発音確認	発表のための練習・準備
第3週	パフォーマンス課題の発表 学習の振り返り	

なお、グループで行う課題であることから、グループワークの活動の様子を確認するために毎授業後に「グループワークの記録・振り返りシート」を記入してもらった。シートの上にはグループワークの際に気をつけてほしいことを記載し、毎授業4つの質問に答える形で振り返りの活動を行った。

グループワークの記録・振り返りシート

グループワークの際には以下のことに気をつけましょう。

- 誰かに任せきりにならないように、出来るだけ皆で取り組むようにしてください。
- スペイン語の台本を作成するときは、分担しても構いませんが、その場合は書いたものをお互いに読みあって意味がわからないところがないか、文法に間違いがないかなどを自分たちで確認しましょう。
- 発音の練習についても同様です。お互いで発音を確認し合って、アクセントや読み方などが間違っている場合には直し、改善出来そうなところ（声量、抑揚、ジェスチャー等）があれば提案しましょう。

1. 今日の授業の中で、グループで取り組んだことは何ですか？簡潔に書いてください。
2. 今日の取組みの中で、あなたがしたことは何ですか？具体的に書いてください。
3. 今日の取組みの中で、グループの人がしたことで良かった点があれば教えてください。（人物／内容）
4. 今日の取組みの中で、個人の学習の中では得られないような気づき・学び・経験はありましたか？あれば教えてください。

以下、週ごとの活動の概要、及び教室内における生徒同士の「協働」の様子や振り返りシートのコメントを示す。

第1週：グループ決め・ストーリーの設定決め

クラスの生徒数は12名であったため、3人×4グループ（グループ1, 2, 3, 4）に分けた。生徒同士は3年間同じクラスで互いに能力や性格をよく知っているため、グループの決め方は生徒に任せた。その結果、あみだくじを行い、必要であれば調整することになったが、くじ引きで決まったグループで問題ないということになり、結果的に調整は行わなかった。

その後、グループごとにストーリーを決めてもらった。その際には、ワークシートを用意し、下記の項目を話し合うように指示した。

台本を作成する前に、ストーリーの設定を話し合しましょう。

- ◆ 国内／国外、具体的な国・都市名など
- ◆ 旅行・観光などの特別な滞在なのか、日常なのか
- ◆ 登場人物とその関係性（どこの出身なのか、職業や話す言語、好きなものなど）
- ◆ どこの店／レストランに行くのか、なぜ行くのか
- ◆ 何を買う・注文するのか、いくらか

この 1 週目の授業では、4 グループ間で場面や役の決め方、及び進み具合に差が見られた。一人の生徒がリードして話し合いを進めていくグループ（グループ 1）もあれば、じゃんけんなどで配役を決めるグループもあった（グループ 2, 3）。一方で、なかなか話し合いが進まずに宿題となってしまうグループもあった（グループ 4）。

振り返りシートの記録からは、生徒がグループ内での自身の活動と他者の活動をメタ認知的に捉えている様子が見られた。例えば、上述の例えばグループ 1（生徒 A, B, C）では、話し合いをリードした生徒 A が、Q2 の「グループの中であなたがしたこと」の欄で「設定の提案や進行役をした」と述べている。それに対し、同グループの生徒 B と生徒 C は、Q3 の「グループの人の取り組みでよかった点」において、「A さんが流れをまとめてくれた」「物語の大枠を作ってくれて助かった」と述べており、生徒たちはグループでの各々の役割や成果を客観的に振り返ることができていることがわかる。

第 2 週：スペイン語原稿の作成・発音練習

次の週の授業では、グループで決めたストーリーの設定に基づき、スペイン語の原稿を作成させた。グループ内で原稿を作成した後に教師のチェックを受けて原稿を完成させ、授業の終わりにネイティブ講師が原稿を読み上げてもらい、そのモデル音声をもとに各自宿題として練習させた。以下に、この週のワークシートの指示文を示す。

スペイン語で台本を作成して、セリフを練習しましょう。

- ◆ 自分たちが習った語彙、文法を使って文を作りましょう。（聞く人は皆さんと同じレベルです。発表を聞く人がわかるように心がけてください。）
- ◆ 翻訳機に頼らずに、仲間と先生に頼りましょう。また、原稿完成後に先生のチェックを受ける際には、あらかじめグループ内で原稿に修正点・改善点がないか確認しましょう。（グループ内で修正した箇所は色を変えて記入してください。）
- ◆ 授業の終わりに先生のモデル音声を録音して、練習しましょう。

この週は振り返りシートとともに、原稿を提出させたが、その原稿からも生徒同士の「協働」の様子を伺うことができた。例えば、文法のレベルでは、conmi*を conmigo と、Vamos comer*を Vamos a comer と直したり、語彙のレベルでも ciudadano*を ciudad と訂正したりと、生徒同士で協力して間違いを修正した形跡が見られた。

また、振り返りシートでは「わからないところがわかるようになった」というような生徒同士の協働学習の成果や「同じグループの C さんが思っていた何倍もスペイン語ができることを知った」といったクラスメートへの理解の促進が見られた。

第3週：パフォーマンス課題の発表

パフォーマンス課題の発表では、グループごとに聞く人たちに向けてクイズを 2 問用意させ、内一問は値段などの大きい数の聞き取り、もう一問は自由とした。また、教師があらかじめ指示したわけではないにもかかわらず、どのグループも小道具を準備したりジェスチャーを取り入れるなど工夫して発表していた。

発表の際には、生徒同士で助け合う姿が見られた。例えば、グループ 3 (生徒 G, H, I) の発表では、生徒 I が自分の台詞を忘れてしまい、長い沈黙の後に台詞を間違えてしまう (“... ¿Cuánto ... cuánto cuestras*?”) が、同じグループの生徒 G が耳元で “¿Cuánto cuesta?” と囁いて生徒 I をサポートする場面が見られた。

この生徒 G の振り返りシートを見ると、Q2 の「グループの中であなたがしたこと」の欄に「自分だけでなく皆のセリフを覚えて発表中に助けられるようにした」と書いており、生徒 G がグループの発表がうまくいくように事前に自分のパート以外も練習していたことがわかる。さらに生徒 G は、Q3 の「グループの人の取り組みでよかった点」の欄で、「I さんはもともとスペイン語が苦手そうだったけど、頑張っ覚えてきてくれて難しいセリフをこなしてくれた。すごい努力してたと思うし、これを機に I さんと仲良くなれたと思う」と記述している。このように、グループ学習は、生徒にとってお互いの取り組みや姿勢を評価する機会となるだけでなく、その過程で仲を深めたり互いを知る機会にもなることがわかった。

振り返りシートからは、例えば「前日に J さんがグループ全員に頑張ろうねとメッセージをくれました」といった生徒が教室内で見取ることのできない行動を知ることもできた。他にも、「自分はグループワークが苦手だと感じていたけど、積極的に意見を出して仕切る場面もあって、苦手意識が薄れた。」「一人で勉強しているときは誰か説明にすることはできないけど、グループ学習だったことで人に教える機会を作ることができた。自分の知識を定着させることにも繋がったし、自分がわからないことを明確にすることができた。」というような、個人の学習では得ることのできないグループ学習ならではの成果も見られた。

以上のように、本グループワークの中では様々な形で生徒同士の協働を見ることができた。ただし、生徒たちがグループワークをする際には教師がそれを促すように工夫することも必要だと感じている。今回の課題の中では、毎授業ワークシートを与え、グループワークの時に意識することを明示した上でできるだけ生徒主体で活動を行わせるように心がけた。その結果、想像していたよりも生徒たちは教師やAIツールなどを頼ることはなく、生徒同士で助け合う姿が見られたのが印象的である。また、グループにワークだと誰が準備をしたのかが不明瞭になることが多いが、毎授業の記録・振り返りシートのおかげで、生徒が授業外でした取り組みや他のクラスメートに対して考えていることを多面的に知ることができたと感じている。

最後に、この実践報告を聞いた参加者からのコメントや質問、およびその回答を以下に記す。

- ⑩ 「Mediar conceptos (概念の仲介)」は他の「Mediación (仲介)」の中の他の項目と比べて抽象的でわかりにくかったが、教室の中でグループで協働することやグループワークをリードすることがどのように行われるかのイメージが具体化された。
- ⑩ 振り返りシートやワークシートの作り方や書き方が上手いと感じた。学習者たちがグループワークの中で協働するための役割を、ワークシートなどを活用しながら教師がしっかり果たしているように思った。
- ⑩ このようなグループワークをする際に、生徒の活動の様子をどのように評価に含んでいるのか。
→回答：教師の観察や振り返りシートから見られる生徒たちの協働的な取り組みに関しては点数化した評価は行わなかったが、個人内評価という形でワークシートにコメントをしたり声掛けをするなどしてフィードバックを行った。